

第15回米子市水道事業審議会 資料

- ・平成24年度の決算について

平成25年11月29日（金）

～企業会計の大きな三つの特徴～

◇ふたつの財布

- ・収益的収支（単年度の経常的な収支）
- ・資本的収支（中長期的な投資に係る収支）

◇減価償却

- ・投資的な費用を平準化する

◇補てん

- ・資本的収支の不足額を補う

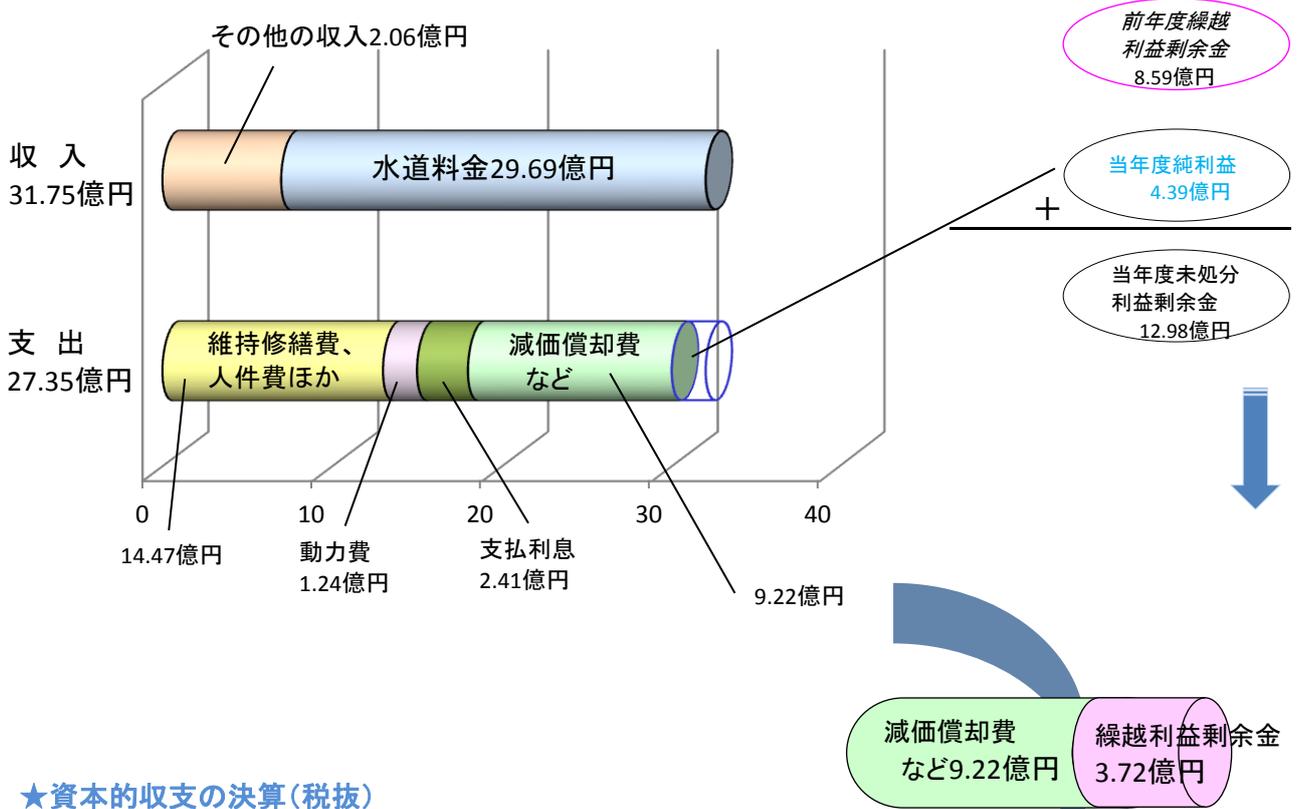
収益と費用の年度比較

(単位:千円)

科 目	22年度	23年度	24年度	23年度 22年度	24年度 23年度
1 営業収益	3,333,223	3,190,246	3,142,891	95.7	98.5
(1) 給水収益	3,092,946	2,982,423	2,969,167	96.4	99.6
(2) 受託工事収益	131,985	90,378	46,715	68.5	51.7
(3) その他営業収益	67,301	76,795	81,255	114.1	105.8
(4) 加入者納付金	40,991	40,650	45,754	99.2	112.6
2 営業費用	2,626,826	2,642,725	2,487,694	100.6	94.1
(1) 原水及び浄水費	533,146	513,169	504,149	96.3	98.2
(2) 配水費	404,865	431,149	301,839	106.5	70.0
(3) 給水費	71,718	77,414	76,914	107.9	99.4
(4) 受託工事費	126,497	85,486	48,129	67.6	56.3
(5) 業務費	291,626	290,326	286,427	99.6	98.7
(6) 総係費	286,337	283,693	325,198	99.1	114.6
(7) 減価償却費	877,392	869,622	880,915	99.1	101.3
(8) 資産減耗費	35,245	91,866	64,123	260.6	69.8
営業利益	706,398	547,521	655,197	77.5	119.7
3 営業外収益	36,684	37,145	31,843	101.3	85.7
(1) 受取利息及び配当金	5,353	3,761	2,651	70.3	70.5
(2) 他会計補助金	26,600	24,727	21,715	93.0	87.8
(3) 雑収益	4,731	8,657	7,477	183.0	86.4
4 営業外費用	292,162	267,555	243,893	91.6	91.2
(1) 支払利息及び 企業債取扱諸費	285,740	262,898	241,442	92.0	91.8
(2) 雑支出	6,422	4,657	2,451	72.5	52.6
経常利益	450,919	317,111	443,147	70.3	139.7
5 特別利益	0	444	4	-	0.9
(1) 固定資産売却益	0	0	0	-	-
(2) 過年度損益修正益	0	444	4	-	0.9
6 特別損失	3,193	3,121	3,811	97.7	122.1
(1) 固定資産売却損	168	70	0	41.7	0.0
(2) 過年度損益修正損	3,025	3,051	3,811	100.9	124.9
当年度純利益	447,726	314,434	439,340	70.2	139.7
7 前年度繰越利益剰余金	677,448	801,647	859,053	118.3	107.2
当年度未処分利益剰余金	1,125,174	1,116,081	1,298,393	99.2	116.3

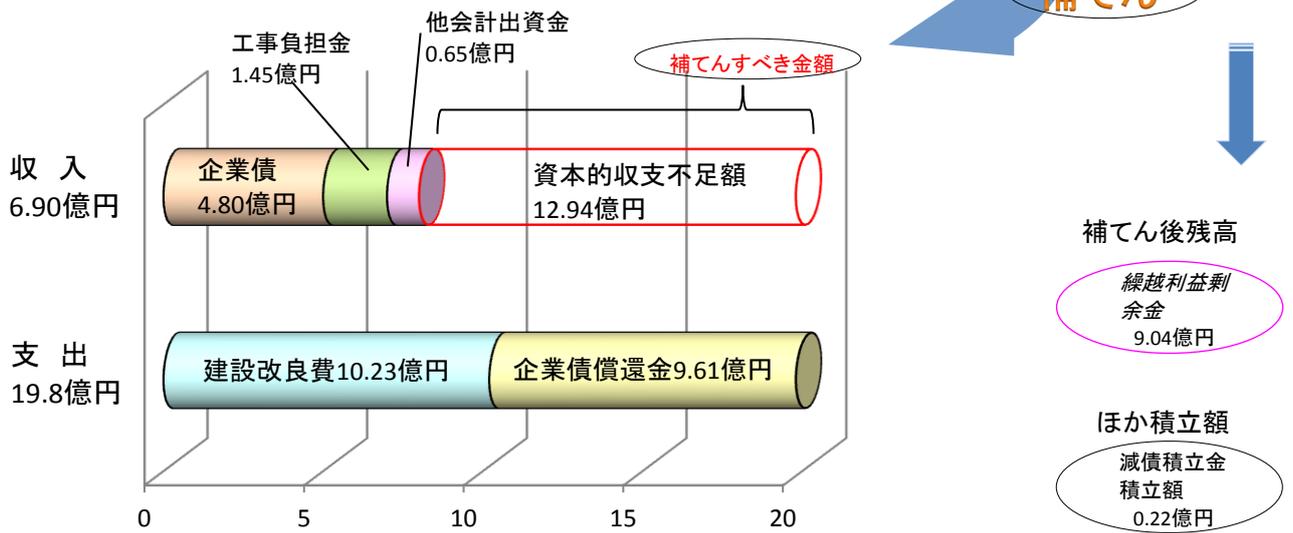
★収益的収支の決算(税抜)

(事業の運営や水道施設の管理に係る経常的な収支)



★資本的収支の決算(税抜)

(水道施設の新設や更新などに係る投資的な収支)



- ・動力費 …水道水をお届けするために必要な電気料金。
- ・支払利息 …企業債(借入金)の利息。
- ・減価償却費 …施設の新設や更新に使ったお金を一度に費用とはせず、毎年、費用化するものです。
- ・建設改良費 …施設の建設費や更新に伴う改良工事費で投資的要素があるものです。
- ・工事負担金 …下水道や土木工事などに伴い発生する他会計が負担すべきお金です。
- ・企業債償還金 …企業債(借入金)の元金の返済です。
- ・資本的収支不足額 …減価償却費や繰越利益剰余金などの内部留保資金で補てんします。

・減価償却とは…

★費用配分の側面

水源地などの施設あるいは水道管などは、長年にわたって使用するもので、単年度に消耗してしまうものではありません。そこで、「使う年数に応じて少しずつ費用にすべき」と考えるのが合理的であり、企業会計の原則です。その分割された費用のことを減価償却費といい、損益計算(収益的収支)に計上します。

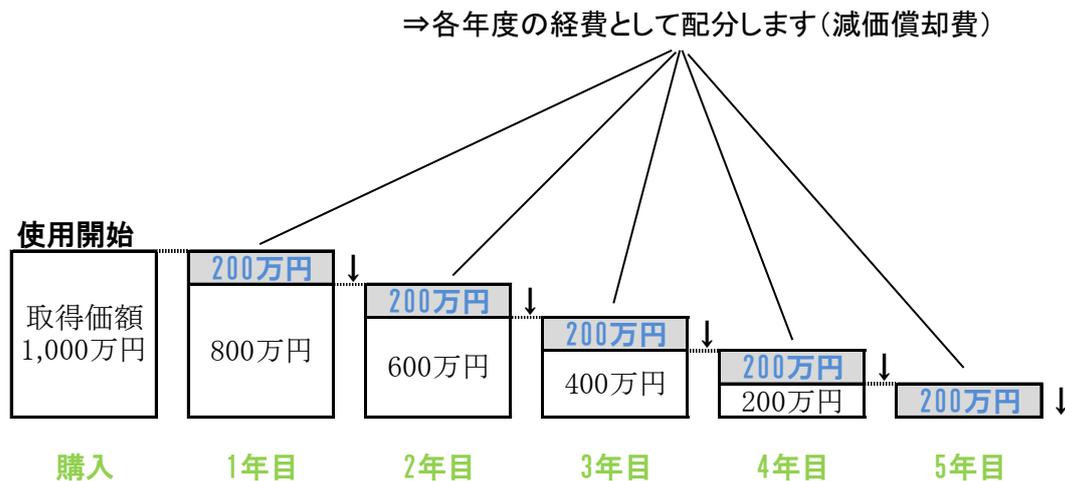
これが、減価償却における費用配分の側面であり、損益計算書に表れます。

★資産評価の側面

水源地などの施設あるいは水道管などは、固定資産といいます。取得した年度末に資産(財産)として貸借対照表の左側に評価額を表示します。

しかしこの資産も、毎年、価値が下がっていくと考えるのが通常です。そこで、単純に、費用配分で費用に計上した分だけ、価値が下がっていくと考えるのが合理的であり、これを減価償却における資産評価の側面であり、貸借対照表の減価償却の累計額として記載する資産(財産)の目減り分となります。

◆図解



取得価額 … 固定資産の購入額(ここでは1,000万円としています。)

耐用年数 … 使用可能な期間(ここでは5年としています。)

減価償却費 … $1,000万円 \div 5年 = 200万円$
(資産の価値の減少)

財務や経営に関する指標の推移と比較

区 分	算 式	22	23	24	*全国平均 (H23)	鳥取市 (H23)	松江市 (H23)
1 総 収 益 対 総 費 用 比 率 (%)	$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$ 事業の収支状態を示す。この値は100%以上であることが望ましいです。	115.3	110.8	116.1	106.4	94.1	108.3
2 営 業 収 益 対 営 業 費 用 比 率 (%)	$\frac{\text{営 業 収 益}}{\text{営 業 費 用}} \times 100$ 営業活動の収支状態を示す。比率は大きいほどよい。	126.9	120.7	126.3	111.7	108.5	113.8
3 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$ 短期債務に応ずることのできる流動資産が十分にあるか判断する指標。この値は100%以上で、より高いほうが支払い能力があります。	396.6	494.0	314.2	587.1	789.5	775.2
4 料 金 収 入 対 する 企 業 債 残 高 の 割 合 (%)	$\frac{\text{企 業 債 残 高}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$ 企業債残高の給水収益に対する割合を示します。企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標です。この値は低いほうがよいです。	343.5	338.3	323.6	253.4	642.3	263.5
5 供 給 単 価 (円/m ³)	$\frac{\text{給 水 収 益}}{\text{有 収 水 量}} \text{円}$ 1m ³ 当たり、どれだけの収益を得ているかを示す。低額であるほうがサービスの観点から望ましいが、単純に金額だけで判断することは難しい。	137.80	137.24	137.24	163.4	134.0	208.2
6 給 水 原 価 (円/m ³)	$\frac{\text{総費用-(受託+材料売却+特別損失)}}{\text{有 収 水 量}} \text{円}$ 1m ³ 当たり、どれだけ費用がかかっているかを示す。安いほうが、事業者にとっても水道利用者にとっても望ましいが、給水原価の水準だけでは、経営の優劣を判断することは難しい。	124.42	129.98	124.03	160.2	154.7	198.9
4 料 金 回 収 率 (%)	$\frac{\text{供 給 単 価}}{\text{給 水 原 価}} \times 100$ 供給単価の給水原価に対する割合を示します。水道事業に経営状況の健全性を示す指標の一つです。100%を下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入以外の収入で賄われていることを示します。	110.7	105.6	110.6	100.4	86.6	104.7

*全国平均 … 給水人口10~50万人の事業者の平均的な値